

フェルメール展

光の天才画家とデルフトの巨匠たち

Commemorating the 150th Anniversary of the Conclusion of the Treaty of Amity and Commerce with the United States,
the Netherlands, the United Kingdom and France

Vermeer and the Delft Style

2008年8月2日(土)~12月14日(日)

東京都美術館(上野公園)

珠玉の逸品 追加決定!

日本初公開5点を含む過去最多7点のフェルメール作品が来日



日本初公開作品

National Gallery of Ireland, Sir Alfred and Lady Beit gift, 1987 (Beit Collection).
Photo ©National Gallery of Ireland.
This loan is supported by Hata Stichting Foundation.

ヨハネス・フェルメール 《手紙を書く婦人と召使い》

Woman writing a Letter, with her Maid

1670年頃 油彩、カンヴァス 72.2 × 59.7 cm

アイルランド・ナショナル・ギャラリー(アイルランド)所蔵

National Gallery of Ireland, Dublin

フェルメールが発する光は、観る人の眼から入り胸の奥の幸福の扉を照らします。西洋美術史上、最も才能溢れる画家、三十数点しか現存しない作品により謎のベールに包まれた画家、ヨハネス・フェルメール。350年以上の時を経て、いま世界中で最も熱く高い脚光を浴びています。独特な光の質感と知性的なタッチで人を魅了する絵画の中で、とくに評価の高い作品群が奇跡のように集まりました。同時にフェルメールが生涯を過ごしたオランダの小都市が育んだ美の潮流デルフト・スタイルの画家たち、カレル・ファブリティウス、ピーテル・デ・ホーホ等の名作も紹介します。日本初公開の作品もふくめ、いまだかつてこれほどの傑作が日本で一堂に会したことはありません。名作たちに時を忘れ心奪われる、おそらく最初で最後の展覧会です。

- 【タイトル】 **フェルメール展** 光の天才画家とデルフトの巨匠たち
Vermeer and the Delft Style
 Commemorating the 150th Anniversary of the Conclusion of the Treaty of Amity and Commerce with the United States, the Netherlands, the United Kingdom and France
- 【会場】 東京都美術館 企画展示室(上野公園)
 〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36 TEL:03-3823-6921
<http://www.tobikan.jp/>
- 【会期】 2008年8月2日(土)～12月14日(日)
 月曜休室(月曜が祝日の場合は開室し、翌日休室)
 午前9時～午後5時、金曜日は午後8時まで(入室は閉室時間の30分前まで)
- 【主催】 東京都美術館、TBS、朝日新聞社
- 【特別協賛】 第一生命保険 一生涯のパートナー  
第一生命 読者とともに130年
- 【協賛】 損害保険ジャパン
- 【後援】 外務省、文化庁、オランダ王国大使館、アメリカ大使館、
 ドイツ連邦共和国大使館、オーストリア大使館、
 BS-i、TBS ラジオ、OTTAVA
- 【協力】 日本航空、日本通運、セコム、JR 東日本
- 【音楽協力】 東京藝術大学音楽学部
- 【宣伝協力】 HBC/ATV/IBC/TBC/TUY/TUF/BSN/SBC/UTY/TUT/MRO/静岡新聞社・静岡放送
 /CBC/MBS/RSK/RCC/BSS/tys/ITV/KUTV/RKB/NBC/RKK/OBS/MRT/MBC/RBC
- 【企画監修】 ブルース美術館 館長 ピーター・サットン
 ボイマンス美術館 チーフキュレーター イェルーン・ヒルタイ
- 【企画】 財団ハタステフティング
- 【観覧料】 (消費税込) 団体は20名以上

日本オランダ年
 2008-2009
www.nihonoranda.jp



これは「日本オランダ年2008-2009」を記念して描かれた
 オランダの絵本作家ディック・ブルーナによるオリジナルイラストです。
 Illustrations Dick Bruna © copyright Marcis bv, 1953-2008

	当日	団体
一般	1600 円	1300 円
学生	1300 円	1000 円
高校生	800 円	500 円
65 歳以上	900 円	600 円
フェルメール展 限定プレミアム券	9,800 円	7 枚つづり、販売枚数限定、会場・公式 HP のみで限定販売
金曜限定 ペア得ナイト券	2,500 円	会場、公式 HP で 8 月 2 日(土)から 12 月 12 日(金)まで限定販売 2 名同時入 場、男女問わず(午後 5 時～午後 8 時、 入室は午後 7 時 30 分まで)

入場券の販売は、公式 HP= <http://www.tbs.co.jp/vermeer/>、<http://www.tobikan.jp/>、<http://www.asahi.com/vermeer/> ローソンチケット(Lコード:33111)、イープラス、CN プレイガイド、セブン-イレブンなど主要プレイガイド 中学生以下は無料 身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付き添の方(1名まで)は無料
 毎月第3水曜日はシルバーデーとし、65歳以上の方は無料 毎月第3土・日曜日は親子ふれあいデーとし、18歳未満の子を同伴する保護者(都内在住)は一般当日料金の半額 いずれも証明できるものをご持参ください 都内の小学・中学・高校生並びにこれらに準ずる者とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧するときは無料(事前承認が必要)

- 【お問い合わせ】 TBS 展览会ダイヤル: 0570-060-060
 展览会公式 HP: TBS <http://www.tbs.co.jp/vermeer/>
 朝日新聞社 <http://www.asahi.com/vermeer/>

Vermeer and the Delft Style

展覧会によせて

ブルース美術館(アメリカ)館長 ピーター・サットン

本展覧会は、フェルメールによる作品の魅惑的な美しさを紹介し、それを 17 世紀中葉にデルフトで生まれた特徴的なスタイルの中に位置づけるものです。また同時にこの展覧会は、芸術史における最大の謎のひとつに迫ります。1650 年以前、デルフトは退屈で保守的な街にすぎませんでした。地理的には要所にあり、街としての存続には問題なかったのですが、政治活動からは隔離され、商業的な成功とは程遠い状態にありました。当時この街には、流行おくれの画家や素人画家しかいなかったのです。

しかし 17 世紀の中葉、この街に突如として、空間描写や自然光の描写、遠近法を用いて、前例がないほど自然かつ幻想的な絵を生み出す革新的な画家のグループが形成されました。本展覧会は、このスタイルの源泉をたどり、デルフト・スタイルの最も重要とされる作品の数々とともに、その主要な画家たちを紹介いたします。

デルフト・スタイルは初めに、ヘラルド・ホックヘーストやエマニュエル・デ・ウィッテなどといった建築画家によって生みだされました。実在するデルフト教会の内部が、巧みな遠近法で描かれるようになったのは、彼らがはじまりです。

レンブラントの才能ある弟子カレル・ファブリティウスは、1647 年にデルフトに居を移し、すぐに遠近法の達人として名声を確立させました。彼が描いた小品《楽器商のいるデルフトの眺望》は、ファブリティウスが遠近法に通じていたことを示す現存する唯一の作品であり、本展覧会の見所のひとつです。

ファブリティウスによる作品は最も希少な作品であり、現存する作品は 12 点(*1)しかありません。その中で、最も有名な彼の自画像を含む 4 点(*2)の作品が今回の展覧会に出品されます。ファブリティウスによる作品の大部分は、1654 年にデルフトのほぼ 1/4 を焼いた火薬庫の爆発によって失われたと考えられており、彼もその爆発の中で命を落としました。

ファブリティウスは何度となくフェルメールの師であるとの説が囁かれました。しかし当時のデルフトには、フェルメールに新しい画法を伝授することができた画家が他にも数人いたことが分かっています。

1650 年代後半には、ピーテル・デ・ホーホが、風俗画や日常風景を描きはじめました。彼は室内や路上の風景画に、非常に自然なタッチや幾何学的秩序を取り入れたほか、白光の描写や、見る者の視線をある点からある点へと導く技法も使用しています。あまり知られていない彼の作品《女主人への支払い》は、彼の空間と光の描写を美しく示している作品です。

この展覧会では、偉大なフェルメールの画法の確立を初期の作品《マルタとマリアの家のキリスト》と《ディアナとニンフたち》から追っていきます。彼はこれらの作品を描いた後、デルフト・スタイルの技法を用いた実験を行い、光に満ちた美しい空間を描いた《ワイングラスを持つ娘》を描きました。この作品で彼は、静かな部屋の片隅に佇む 1 人の女性という典型的なスタイルを確立しました。また今回の展覧会では、フェルメールによる現存する 2 点の風景画のうちの 1 点《小路》が日本で初めて公開されます。最後に、フェルメール晩年の傑作《手紙を書く婦人と召使い》が特別出展されることになりました。

本展覧会では、他にエサイアス・パウルセ、ヤコブス・フレル、コルネリス・デ・マンのような画家の作品も紹介します。彼らは空間の幾何学的表現や光の描写への興味をデ・ホーホやフェルメールと共有していました。

デルフト・スタイルはデルフトに生まれてすぐに消え去ってしまいました。その技法の担い手たちは、技法を確立させたあと、アムステルダムのようなより期待の持てる市場へと旅立ってしまったからです。1675 年にフェルメールが没するまでには、この街は以前のように重要ではない街に戻っていきました。しかしこのデルフト・スタイルの作家たちは、350 年以上も愛され、輝きを放つ作品を残していったのです。

(*1 しかしマウリッツハイス王立美術館長デュパルクおよびヒルタイ博士は 8 点としている)

(*2: *1 で述べた 8 点のうちの 4 点)

Johannes Vermeer

ヨハネス・フェルメール (1632-1675)

ヨハネス・フェルメールは、17 世紀に活躍したオランダ画家の中でも最も評価の高い画家の一人である。しかしながら何世紀にもわたり、彼の存在は謎に包まれていた。彼による作品は、わずか 30 数点しか現存していないからだ。彼の存在が再発見され、彼の作品に「フェルメール作」という表記が冠せられるようになったのは、1870 年代になってからのことである。さらにこの画家の生涯についてはあまり知られていない。1632 年に絵画の売買を趣味とする絹織物職人の息子として生まれたフェルメールは、自らも絵画の売買に熱心で、その生涯の全てをデルフトで過ごした。フェルメールの画家としての師についても、あまり明らかにされていない。同じくデルフトで活躍していた画家、カレル・ファブリティウスに師事していたという説もある。いずれにせよ 1653 年にフェルメールは地域の画家組合に入会している。

現在フェルメールが描いたと判明している作品は、わずか 30 数点しかない。宗教画が多い初期の作品には、ユトレヒトのカラヴァッジョ派の影響を見ることができる。しかしこれ以降の彼は、1 人か 2 人（それも通常は、女性であることが多い）の人物によって構成される繊細な室内画を主に制作した。親しげな様子を描いたこれらの作品に登場する人物は、手紙を読んだり、首回りの襟を正したり、牛乳を注いだりなど、日常生活の作業に熱心に没頭している。またフェルメールの作品では、光が窓から差し込んでくる様子が多く描かれている。彼は光が物にあたっている様子を描く達人だった。



©National Gallery of Scotland, Edinburgh

《マルタとマリアの家のキリスト》

Christ in the House of Martha and Mary

1655 年頃 油彩、カンヴァス 160 × 142 cm

スコットランド・ナショナル・ギャラリー(スコットランド)所蔵

National Galleries of Scotland, Edinburgh

日本初公開作品

フェルメールの初期のものと思われるこの作品は、彼が駆け出しの画家として抱いた興味やどこで修行したかについて、示唆に富んでいる。力強いタッチや人物構成を見ると、彼はユトレヒト派に通じていたようである。作品の由来は、スコットランド・ナショナル・ギャラリーの蔵品目録、「ブリストルの某家から某家具商が8ポンドか81サンティムズで購入した」という記録から始まる。その後、1901年、ロンドンのフォーブス・アンド・バターソン画廊の展覧会に展示されて、同じ年、フェルメールの作品と認められた。この時の所有者は、スコットランドのスカルモリー城主W.A. コーツで、彼の2人の息子が、父親を記念して美術館に寄贈し、今に至っている。

いくつもの修正跡からは、キリストの右手の人差し指、横顔と耳、マルタの右袖の端の位置を若干描き変えた事がわかる。また、テーブルにかけられた東洋風の敷物は、《眠る女》に描かれているものと、よく似ている。もしかするとフェルメールは、所有していた敷物をもとに、色を変えて絵の中に描いたのかもしれない。



©Koninklijk Kabinet van Schilderijen Het Mauritshuis

《ディアナとニンフたち》

Diana and Her Nymphs

1655-1656年頃 油彩、カンヴァス 97.8 x 104.6cm

マウリッツハイス王立美術館(オランダ)所蔵

Koninklijk Kabinet van Schilderijen Het Mauritshuis, The Hague

この《ディアナとニンフたち》は、神話をテーマにしたフェルメールの作品としては、唯一現存する作品である。作品の主題は珍しく、ギリシャ神話の女神ディアナがニンフと休息し、黙想するひとときを描いている。

ニンフを引き連れ、岩の端に座る女性は、頭の王冠に載っている三日月によって狩りの女神ディアナであることがわかる。ふつう彼女を描く時、よく描かれる弓や矢は、ここには描かれていない。何かを考えるように顔を下に向ける女性の姿は、薄暗がりのなかにどこか静謐な雰囲気をかもし出しているのが分かる。

色彩の対比と光の効果が美しいこの《ディアナとニンフたち》は、初期のフェルメールがどのようにその画力を磨いていったかをみる手がかりになる作品といえるだろう。



©Rijksmuseum, Amsterdam

こみち
(小路)

The Little Street

1658-1660 年頃 油彩、カンヴァス 53.5 x 43.5 cm
アムステルダム国立美術館(オランダ)所蔵
Rijksmuseum, Amsterdam

日本初公開作品

《小路》は《デルフトの眺望》と共に、フェルメールの現存する2枚の風景画のうちの1枚である。1682年にディシウス・コレクションのリストに見ることができ、その後も常に高い評価を得ていた。1819年頃、J. マレーはこの絵を見て次のように賞賛した。「ある通りの片側の眺め。そして一軒の家の開いたドアの所に老女が座って仕事をし、通路の向こうではもう一人の女が流しを磨いている。全てがこの画家特有の誠実さと才気で描かれている」と。この作品はいくつもの変遷を経て、最終的に、1921年H.W.A. デーテルディングにより、アムステルダム国立美術館に寄贈された。X線写真を見ると、フェルメールが、左側にある通路に視覚的ゆとりを持たせるため、戸口に座っていた人物を塗りつぶしたことがわかる。また、絵の中の建物に関しては、16世紀以前の外観である事が判明している。ただ、それがどこにあった建物であるのかについては議論が分かれ、決定的な証拠がないまま、未だに解決できない謎の一つとなっている。



©Herzog Anton Ulrich-Museum, Braunschweig,
Kunstmuseum des Landes Niedersachsen

《ワイングラスを持つ娘》

The Girl with the Wineglass

1659-1660年頃 油彩、カンヴァス 77.5 × 66.7 cm

アントン・ウルリッヒ美術館(ドイツ)所蔵

Herzog Anton Ulrich-Museum, Braunschweig

日本初公開作品

この作品は初め、ディシウス・コレクションに収められており、1696年の競売の時に、ブランシュヴァイクのアントン・ウルリッヒ公に購入されたといわれている。1807年には、ナポレオン1世によってパリに持ち去られてしまうが、幸い1815年にブランシュヴァイクに返還された。ただし、1900年ヤン・フェスが、「ベルリンの修復家ハウザーが、かなりひどい扱いをした」と、記している。幸運なことに、ニスのはらはらした層は傷んでいるものの、その下の細部は完全に保存されていた。美しい窓の家紋は、《紳士とワインを飲む女》"The Glass of Wine" (ベルリン国立美術館所蔵)に描かれたものと同じである。以前ド・ミリモンドは家紋の女性を、身をくねらせる蛇を手取る「弁論」の像と解釈した。しかし、1978年には、R.クレスマンにより手綱を持つ女性は伝統的に「節制」を表すと正しく判断され、室内で展開される色恋沙汰への戒めとして描かれたのではないか、といわれている。



The Metropolitan Museum of Art, New York, Bequest of Collis P. Huntington, 1900, (25.110.24), Image ©The Metropolitan Museum of Art

《リュートを調弦する女》

Woman with a Lute

1663-1665 年頃 油彩、カンヴァス 51.4 × 45.7 cm

メトロポリタン美術館(アメリカ)所蔵

The Metropolitan Museum of Art, New York

現在《リュートを調弦する女》として知られるこの絵は、1817年 P.ファン・デル・スプレーとダニール・デュ・プレ競売で売られたときは、絵の中の女性が弾いているのはギターだと思われていた。またド・ミリモンドは、女性は楽器（リュート）を調律しているのであって、演奏しているわけではないことを指摘した。イギリスで、コリス・P. ハンティントンが購入した後、1897年、彼の全ての蔵品とともに、メトロポリタン美術館に遺贈され、1925年には同館に移管された。

特別出展作品



National Gallery of Ireland, Sir Alfred and Lady Beit gift, 1987 (Beit Collection).
Photo © National Gallery of Ireland.
This loan is supported by Hata Stichting Foundation.

《手紙を書く婦人と召使い》

日本初公開作品

Woman writing a Letter, with her Maid

1670年頃 油彩、カンヴァス 72.2 × 59.7 cm
アイルランド・ナショナル・ギャラリー(アイルランド)所蔵
National Gallery of Ireland, Dublin

フェルメールの晩年の様式の優れた一例である。人物を大きく見せるために視点を低く置き、空間を慎重に分割し構図を熟考している。背景の絵は、ルーヴル美術館所蔵の《天文学者》にも描かれている《モーセの発見》である。



《ヴァージナルの前に座る若い女》
A Young Woman Seated at the Virginals

1670年頃 油彩、カンヴァス 25.2 × 20 cm
個人蔵

日本初公開作品

この可愛らしい小さな絵は、個人コレクターの手に残っている最後のフェルメール作品である。作品は黄色い毛織のショールと白い繻子のドレスに身を包んだ若い女性が、ヴァージナルの前の青いベルベットの椅子に座っている様子を描いている。長年、この作品は比較的世間に知られておらず、限られた学者しか目にすることができなかった。近年の科学的研究により、この作品が描かれた手法がフェルメールの手法と完全に一致することが証明された。この作品の比較的粗雑なカンヴァスは、《レースを編む女》"The Lacemaker"（ルーヴル美術館所蔵）が描かれたカンヴァスの縫い目と非常によく似ており、これら2点の作品の支持体(*1)がおそらく同じ布地から切り取られたものだということが分かる。下地の構成もフェルメールの独特な方法に則っている。さらに使用されている顔料——リード・ティン・イエロー、グリーン・アース、そして非常に高価で、深い青の原料となるほとんどフェルメールの作品にしか使われていないウルトラマリン（ラピス・ラズリ）——が、この作品の作者を裏付ける強い証拠となっている。

(*1 支持体とは絵を支えるもの。水彩画なら紙であったり、油彩画ならばカンヴァスや木であったりする。)

Carel Fabritius

カレル・ファブリティウス(1622-1654)

ファブリティウスの名前の由来は、ラテン語で「職人」という意味の“faber”からきている。自らこの名を選んだ彼の最初の職業は、大工だったという説もあった。しかし彼は、おそらくビームスターで教師をしていた父から、絵についても学んでいたと言われている。1641年、ファブリティウスはアムステルダムのレンブラント工房に入り、レンブラントの助手を兼ねた弟子となり、ここで数年を過ごした。1645年に独立した彼は、最初はビームスターで、1650年からはデルフトで画家としての活動を続けた。だが1654年、デルフトの四分の一を焼いた火薬庫の大爆発の犠牲になり、彼は命を落とした。ファブリティウスは、レンブラントの弟子の中でも最も才能がある弟子の一人といわれていた。彼は肖像画を描いたほか、トロンプ＝ルイユ（騙し絵）の表現法を確立した。



©The National Gallery, London, Presented by The Art Fund, 1922

《楽器商のいるデルフトの眺望》

A View of Delft, with a Musical Instrument Seller's Stall

1652年頃 油彩、カンヴァス 15.4 × 31.6 cm

ロンドン・ナショナル・ギャラリー（イギリス）所蔵

The National Gallery, London

この作品は、カレル・ファブリティウスが錯視的な遠近技法の達人だったことを示す唯一の現存する作品である。まずこの作品には、旧ランゲンダイク運河のそばにいる楽器商と彼の前に横たえられた楽器が描かれている。また絵の中央に、東端から北西を望むデルフト新教会が描かれていると同時に、絵の左側にはデルフトの町役場が遠くに描かれている。右側に目を向けると、ブロートブルグを超えてヴローウェンレヒトの家々が見える。1874年に増築された新教会の尖塔と、2つの運河は描かれていないが、この作品は地形的にはおおむね忠実に描かれている。しかしながら距離感は、極端に斜めに歪められているので、カンヴァスに描かれたこの作品が当初、どのように展示され、鑑賞されたのか憶測をよんだ。現在では、詳細は異なるが、ほとんどの論者が遠近法のトリックを仕込んだ箱の中に設置されたということに同意している。

《アブラハム・デ・ポッターの肖像》

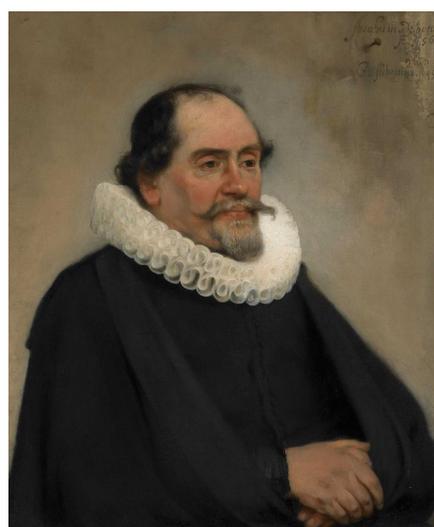
Abraham de Potter (1592-1650)

1649年頃 油彩、カンヴァス 68.5 × 57 cm

アムステルダム国立美術館（オランダ）所蔵

Rijksmuseum, Amsterdam

作品の右上部の隅に名前が記されているこの男性は、アムステルダム出身の絹商人、アブラハム・デ・ポッターである。記録によると1649年にカレル・ファブリティウスがこの作品を描いたとき、デ・ポッターは58歳だったとされているが、妙なことに一方では、デ・ポッターの生年は1592年と言われている。ファブリティウスとデ・ポッターは、家族ぐるみで親交があった。1647年、カレル・ファブリティウスは、アブラハムの息子であるヤスパーから650ギルダーを借用している。おそらくファブリティウスはそのお礼として、この作品を描いたのだろうが、彼は後にその借金を返済している。この作品は、等身大ではない。



©Rijksmuseum, Amsterdam

Pieter de Hooch

ピーテル・デ・ホーホ(1629-1684)

ピーテル・デ・ホーホは、1629年にロッテルダムで、タイル工とその妻との間に生まれ、彼は画家としての活動をデルフトで始めた。当時の通例どおり、彼には画業の他にも副業があり、リネン商人の助手としても活動していた。デ・ホーホは室内で楽しげに語り合う人々で構成された装飾的な室内画を専門としており、窓や別の部屋と通じるドア、遠くの部屋の風景などが彼の作品には多く登場していた。他のオランダ画家と同じように、デ・ホーホの室内画には多くの隠喩がこめられている。1661年にアムステルダムに移り住んで以降、デ・ホーホと彼の周辺の画家たちは、優美で瑞々しいスタイルに傾倒していった。晩年、デ・ホーホはアムステルダムの精神病院で亡くなったといわれているが、彼にいつ死が訪れたのかは分かっていない。

《幼児に授乳する女性と子供と犬》

Woman with Children in an Interior

1658-1660年頃 油彩、カンヴァス 67.8 × 55.6 cm
サンフランシスコ美術館(アメリカ)所蔵
Fine Arts Museums of San Francisco

この作品は母性と家庭愛の美を称えるデ・ホーホ作品の最も純粋な例といえるだろう。親密な空間の表現、暖かさと明るさ、(主に赤、黄、青を基調とした母親の服の色合いと、アクセントとなる帽子の黒に見られるような)シンプルな色使いは、子供をあやす永遠の母親、すなわち神聖なるマドンナを賛美している。



©Fine Arts Museums of San Francisco, Gift of the Samuel H. Kress Foundation, 61.44.37

《食料貯蔵庫の女と子供》

Woman with a Child in a Pantry

1658年頃 油彩、カンヴァス 65 × 60.5 cm
アムステルダム国立美術館(オランダ)所蔵
Rijksmuseum, Amsterdam

この作品は昔から《食糧貯蔵庫》とも呼ばれているが、17世紀中頃のオランダには、そのような特定の目的のために作られた部屋はまだ作られていなかった。子供の長いブロンドの髪、ドレスと金の刺繍が施された帽子、帯と金のボタンは、この子が男の子だということを示している。この作品はピーテル・デ・ホーホの作品の中でも最も世に知られた室内画であり、18世紀にはすでに有名な作品になっていた。



©Rijksmuseum, Amsterdam

Jan van der Heyden

ヤン・ファン・デア・ヘイデン(1637-1712)

ヤン・ファン・デア・ヘイデンは、17世紀オランダを代表する都市風景画家の1人である。また彼は消火活動に興味をもっていた人物でもあり、消防ホースの発明者としても多くの人に知られている。画家としてのヤン・ファン・デア・ヘイデンは、細部まで描きこんだ穏やかな風景画で有名である。作品の細部にまで及ぶこだわりは、彼のテクノロジーへの興味の表れだといえるだろう。ファン・デア・ヘイデンの作品は、本物そっくりのように見えるが、彼は作品の構成のために、描く対象を調整している。彼が描いた作品には、建築学上ありえない作品などもあった。



Founders Society Purchase with Funds from Mr. and Mrs. Edgar B. Whitcomb, Photograph ©1997 The Detroit Institute of Arts

《アウデ・デルフト運河と旧教会の眺望》 *View of the Oude Delft Canal, Delft*

1660年頃 油彩、パネル 55.3 × 70.8 cm
デトロイト美術館(アメリカ)所蔵
The Detroit Institute of Arts, Detroit

オスロ美術館から出品される風景画《デルフト旧運河と旧教会》と非常に密接な関係を持っているこの作品は、典型的なデルフトの風景、すなわち旧デルフト運河と旧教会を非常に正確に描きだしている。この作品から、アムステルダムにおいて傑出した風景画家であったファン・デア・ヘイデンが、デルフト・スタイルの形成にも影響を与えた可能性をみることができる。



©The National Museum of Art, Architecture and Design, Oslo

《アウデ・デルフト運河から見た旧教会の眺望》 *The Oude Delft Canal and the Oude Kerk, Delft*

1675年頃 油彩、パネル 45 × 56.5 cm
オスロ国立美術館(ノルウェー)所蔵
The National Museum of Art, Architecture and Design, Oslo

旧デルフト運河と頑丈で印象的な尖塔をもつ旧デルフト教会を望む景色を描いたこの作品は、ファン・デア・ヘイデンが描いた2枚の旧教会の絵の1枚である。これら2枚の作品は、ほとんど同じ視点から描かれているが、作品の制作年には15年もの開きがある。デトロイト美術館所蔵の作品と比較すると、遠近技法を使った空気感の表現に対する理解と、光と影の表現に重要な進歩をみることができる。

掲載に関するご案内

本展をご紹介いただく場合、下記注意事項をご確認いただき宜しくご対応ください。

展覧会をご紹介いただく場合

本展をご紹介いただく場合、記事・番組内容について、可能なメディア様に際しましては、事実確認のためゲラ刷りの原稿を広報事務局までお送りください。

作品画像のお取扱について

作品画像を希望される場合は、「作品画像 貸出申請書」に必要事項をご記入の上、広報事務局まで FAX でお送りください。また、作品画像を使用する場合は以下の点にご留意ください。

1. 作品画像の使用は本展をご紹介いただく場合に限りさせていただきます。展覧会終了後の放送・掲載は原則としてお断りいたします。
2. 作品画像の貸出に際し、広報事務局より「承認番号」を発行いたします。「作品画像貸出申請書」をお申しいただいた後、事務局よりメールまたはFAXでご連絡いたします。こちらの番号は、展覧会終了まで大切に保管くださいますようお願い申し上げます。
3. 作品画像をご使用いただく際は、下記項目を必ずご掲載ください。

画家名

《作品タイトル》

所蔵先

権利表記(クレジット)

4. 作品は全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用や作品に文字や他のイメージを重ねることはできません。
5. WEB 媒体の方は、不正コピー、画像加工の防止対策をお願いします。
 - ・右クリックによる画像コピーの防止
対応例: 右クリック禁止／背景画像にする／Flash で表示する
 - ・ドラッグ&ドロップによるコピー防止
対応例: 画像を背景画像にし、さらに上に透明 gif を重ねる

以上の点にご留意いただけない場合、著作権者との間にトラブルが生じることがあります。その場合、主催者側では一切責任を負いかねますのでご注意ください。

その他のお願い

掲載紙・誌、もしくは録画テープを、広報事務局までお送りいただきますようお願い申し上げます。

展覧会についての取材・撮影について

本展の取材・撮影をご希望の場合は、事前に広報事務局へご連絡のうえ、所定の取材申込書をご提出ください。ご連絡の無い取材・撮影はお断りすることがあります。

当報道資料、作品画像貸出のお問合せ

「フェルメール展」広報事務局

ピーアールコンビナート株式会社 担当/鎌倉・藤村・井上

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-7

TEL:03-3263-5637 FAX:03-3263-5623 E-mail vermeer2008@prk.co.jp

「フェルメール展」広報事務局 鎌倉・藤村・井上宛て

FAX: 03-3263-5623

希望の広報写真は、下記<希望画像>の画像番号に つけFAXでご返信ください。広報事務局より「画像」と「承認番号」をお送りいたします。尚、画像の使用についてはリリース「掲載に関するご案内」の注意事項をご覧ください。

【II-1】



承認番号No. -

【II-2】



承認番号No. -

【II-3】



承認番号No. -

【II-4】



承認番号No. -

【II-5】



承認番号No. -

- 1 ヨハネス・フェルメール《ヴァージナルの前に座る若い女》“A Young Woman Seated at the Virginals” 個人蔵
- 2 ヨハネス・フェルメール《小路(こみち)》“The Little Street” アムステルダム国立美術館所蔵 ©Rijksmuseum, Amsterdam
- 3 ヨハネス・フェルメール《ワイングラスを持つ娘》“The Girl with the Wineglass” アントン・ウルリッヒ美術館所蔵 ©Herzog Anton Ulrich-Museum, Braunschweig, Kunstmuseum des Landes Niedersachsen
- 4 カレル・ファブリティウス《楽器商のいるデルフトの眺望》“A View of Delft, with a Musical Instrument Seller's Stall” ロンドン・ナショナル・ギャラリー所蔵 ©The National Gallery, London, Presented by The Art Fund, 1922
- 5 ピーテル・デ・ホーホ《幼児に授乳する女性と子供と犬》“Woman with Children in an Interior” サンフランシスコ美術館所蔵 ©Fine Arts Museums of San Francisco, Gift of the Samuel H. Kress Foundation, 61.44.37

<希望画像>

【 -1】	
【 -2】	
【 -3】	
【 -4】	
【 -5】	

< 作品画像、お取扱に関する規定 > ●作品画像を貸出しの際、「承認番号」を発行しております。こちらは会期終了まで、大切に保管して下さい。●作品画像の使用は本展をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。●作品画像をご紹介いただく場合、①作家名、②作品タイトル、③所蔵先、⑤権利表記(クレジット)を必ずご記載ください。●全国で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせ原則として禁止となっております。●WEB媒体の方は不正コピー、画像加工の防止対策をお願いします。 ※その他、詳細についてはリリース「掲載に関するご案内」を参照ください。

< 個人情報の取り扱いについて >

ご記入いただきました個人情報は、弊社(弊社事務局)のクライアントからの情報配信や連絡など必要最低限のリリースのために使用いたします。個人情報は弊社(弊社事務局)のクライアントに、プリントアウトして提供することがあります。その際は、クライアントに対し個人情報保護法の趣旨に則り安全に取り扱い管理することを要求しています。また、許可なく業務委託先以外の第三者に個人情報を開示することはありません。その他の個人情報の取扱につきましては、<http://www.prk.co.jp/privacy.html#p03>をご参照ください。

< 個人情報に関する問い合わせ先 > ピーアールコンピナート(株) 管理部まで TEL 03-3263-5621 FAX 03-3263-5623 E-mail p-info@prk.co.jp



< 作品画像、お取扱に関する規定 > に承諾の上、画像申請を行います。
貴社についてお知らせください

○貴社名

○ご担当者名

○ご住所 〒

○TEL番号

○ご掲載・放映のご予定日があればお知らせ下さい

○媒体名

○所属部署

○E-mail

○FAX番号

月 日